

唐門

この精緻な装飾が施された唐門は、神社の神域の入り口に位置する。秀吉（1537-1598）が住んでいた、豪華な装飾の伏見城の門であると言われている。唐門は、桃山時代（1568-1600）の代表的な芸術として、日本政府により国宝に指定されている。かつては門全体が黒漆で覆われ、門に高浮き彫りにされた装飾は金箔張りまたは鮮やかな彩色がほどこされていた。今では、元の彩色はわずかな形跡しか残っていない。

伏見城が 1620 年代初頭に解体された後、この門は徳川幕府の京都における代表部である二条城に移され、その後、新たに統治者となった徳川家と関係がある南禅寺の塔頭である金地院に移された。1868 年に徳川家が権力を失ったことでその支援を受けられなくなると、金地院はこの門を売却することを余儀なくされた。そして豊国神社の所有となり、現在の場所に移された。門の中央に取り付けられた銘板には、後陽成天皇（1571-1617、在位 1586-1611）による書が記されている。